

# 「税の作文」受賞者（中学生・高校生）との座談会を開催！

令和元年10月1日、消費税率の引上げと軽減税率制度が導入され、税についての関心が高まる中、国税庁と税に関する団体は毎年、中学生と高校生を対象に税の作文を募集し、奈良税務署管内では、近畿でもトップクラスの応募数がある。

令和元年12月12日、税の作文表彰式に合わせて、奈良税務署管内受賞者と、税に関する団体の代表者らが奈良市内に集まり、座談会を開催。税の作文に込めた思いや租税教室について熱心に意見を交換した。



**司会** ただ今から、「税の作文受賞者との座談会」を開催いたします。はじめに、本会の主催であります奈良税務署の岸部署長から伺います。

**岸部** 皆さん、お疲れさまでございました。表彰式でも申し上げましたが、本年、奈良税務署管内の税の作文の応募状況は、中学生からは四千七百七十一編、高校生からは二千四百六十二編の応募がございました。そのうち、本日表彰させていただいたのは中学生五十八編、高校生二十一編の計七十九編でございます。その中から代表して5名の皆さんに税の座談会に参加していただいております。皆さん、表彰式が終わったばかりではありますけれども、表彰式を終えての感想などありましたらお聞かせください。

### 税の作文表彰式を終えて

**岸部** 皆さん、お疲れさまでございました。表彰式でも申し上げましたが、本年、奈良税務署管内の税の作文の応募状況は、中学生からは四千七百七十一編、高校生からは二千四百六十二編の応募がございました。そのうち、本日表彰させていただいたのは中学生五十八編、高校生二十一編の計七十九編でございます。その中から代表して5名の皆さんに税の座談会に参加していただいております。皆さん、表彰式が終わったばかりではありますけれども、表彰式を終えての感想などありましたらお聞かせください。



### 【生徒さんからの回答】

**司会** それでは、生徒の皆さん、順番に回答をお願いします。

**江澤**（中学生） このような賞をいただけるだけでも嬉しく思います。これをきっかけに、さらに税について学んでいければなあと思います。

**藤村**（中学生） 一歩初めに聞いた時はとても驚きました。でも普段税について考える機会がなか

なかない中で、今回の作文をきっかけに税について調べ、正しい知識を身に付けることが出来て、とても良い機会になったと思いますし、このような賞をいただけてとても嬉しかったです。

**川上**（中学生） この賞を受賞し、とても嬉しいです。私の姉も昨年受賞しているの、奇跡だなと思いました。この税の作文を書いたことよって、税の使われ方を知れて良かったと思います。

**植田**（高校生） 先ほどもスピーチさせていただいたのですが、すごく緊張したんですけど、私が税に関して学んできたことをこういった式典で表彰していただけて、今後頑張ろうと決まっています。

**郷田**（高校生） 正直、この作文が選ばれたと思っていませんでした。すくびくくりして、表彰されたことをとても光栄に思っています。そして、この税の作文を通して、これからも税についてもっと深く知っていかたいなと思っています。

**司会** それでは、本日のテーマの一つであります「税の作文」に関して、奈良県教育委員会の吉田教育長から御意見を伺います。

### 税の作文に込めた思い・願い

**吉田** 「学び」がこれから変わっていきます。国の方も県も、まず主眼的に学び、それから対話的に学び、深く学ぶ学習を進めようとしていきます。それでも学校の学習は、知識を習得する、テストのために勉強するという方向に流れることが多いのですが、皆さんは、こうして作文を書いたこと、深い学びをされたのではないかなと思います。

**私**の方からは、皆さんに税の作文に込めた思いや願いを教えてくださいと思います。



### 【生徒さんからの回答】

**司会** それでは、生徒の皆さん、順番に回答をお願いします。

**江澤** 税金は、私も今まではあまり身近な存在ではないと思っていました。教科書で税金で賄われているという私達中学生に

とって身近なところから税について考えていけたらいいなと思って書きました。

**藤村** 誰かを助けたらとか、地球環境を守りたいとか、みんなが思っている、一人が動いただけではできないし、みんなが思っているだけでも実現できないと思います。そんな時に、税金が私達の想いを効率よく最大限に活かしてくれると思います。そんな素晴らしいことを伝えたいという想いを込めて書きました。

**川上** まずは、周りの人に税の使われ方を知っている方法を知ってほしいのと、普段歩いてる道路や学校に目を向けることによって、より身近に税を支えているということを伝えたいなと思っています。

**植田** 去年も、税の作文に取り組ませていただいたのですが、その時は正直あまり税に関する知識もなく、でも、今回2年生になって、授業でSSHの税に関する活動をしてきて、社会に対する考え方の変化を自分でも感じました。そういう自分の成長を税の作文に込められたらなあという想いで書きました。

**郷田** まず、できるだけ多くの人に納得のいく税の使い方を知ってもらいたいという想いを込めました。

**吉田** 本日に税について、しっかり考えておられ、中学生、高校生と、成長が見られます。皆さんの想いは、題名に一番出ていると思います。私が最も面白いなと思ったのは、「税も積み重ねる夢」というのは、なかなかいいですね。その夢が社会を創造するものにとどんつながる、広がっていくと思います。

**司会** 本日に良い作文をありがとうございました。

**尾川** 続いて、奈良納税貯蓄組合連合会の尾川会長から御意見を伺います。



藤村 夏希さん  
【作品名】  
税も積み重ねる夢となる

### 調べてみて、理解したこと

**尾川** 今日は、本日に皆さん、おめでとうございます。緊張しないでください。

納税貯蓄組合という団体がありまして、その会と私が出会ったのは、二十八歳の時でした。本日にその頃は、税って大事なことだなというのを私にもはっきりとは分かっていませんでした。

今、皆さん方がそれぞれ作文をお書きになっていたわけですが、私もこれまで何らかの感謝を受けて、ずっと、この作文事業のお手伝いをさせていただいています。今回も、中学生で四千幾ら、高校生で二千幾らの応募をいただきました。今回は、中学生で四千幾らで、高校生で二千幾ら、作文の数が一番だったのですよ。八千近くだったかな。今は、少子化やいる道路や学校に目を向けることによって、より身近に税を支えているということを伝えたいなと思っています。

そして、もう一つは、私達の世代になった時に安心して生活していける社会が出来てほしいという想いを込めて作文を書きました。

**吉田** 本日に税について、しっかり考えておられ、中学生、高校生と、成長が見られます。皆さんの想いは、題名に一番出ていると思います。私が最も面白いなと思ったのは、「税も積み重ねる夢」というのは、なかなかいいですね。その夢が社会を創造するものにとどんつながる、広がっていくと思います。



奈良納税貯蓄組合連合会  
尾川 欣司会長

### 【生徒さんからの回答】

**司会** それでは、生徒の皆さん、順番に回答をお願いします。

**郷田** 私は、最初インターネットで調べていたのですが、税のこととはあまり深く知らなかったから家族にも聞いてみようと思って父に聞きました。

そして、父が人々の暮らしを豊かにするために、税金や民間のお金を使って道路づくりや町づくりの仕事をしているということを知りてくれ、いろいろ参考にさせてもらいました。そして、そこから得た発見は、税金はいろいろな使い方がされているということ、その反面、使われ方が分かりにくいと感じました。

**植田** 私は、文系SSHの時に、財務省の方々に、実際に来ていただいて話を聞いていただいたのですが、その時にいただいたパンフレットや資料、学校の教科書を参考にしながら書きました。

私がこの作文を書いた時は、ちょうど軽減税率が取り入れられた時で、その軽減税率の仕組みは、既に海外では行われていることだと知ってすごく驚きました。

**川上** 私は、学校から配付された冊子や国税庁のホームページを参考にしました。納められている税金が巡り巡って私達の生活をより便利に、豊かにしていることが分かりました。

**藤村** 私は、県庁に置かれていた地方税ガイドを読んで奈良県の税について調べました。私は、税の使い道について、病気になる時とか、小中学生に向けてとか、限定されているイメージがあったのですが、実際には、スポーツイベントを行っていたり、森林や河川の整備をしたりと、みんなが安心して暮らせる社会を支えてくれていることが分かりました。

**江澤** 私は、学校で配られた学年通信やインターネットを利用して調べました。



郷田 夏実さん  
【作品名】  
明るい未来のための税金有効活用

### 【回答に対する感想】

**尾川** 皆さんに配付しているパンフレットは、いろいろありますが、果たして皆さんに理解していただけているかどうか、十分だったかなと、私も資料を作る側からしてみても、見る側の反応に興味があるし、次は、もう少し違ったものにしてみようかなとも思っています。

皆さんに配っているパンフレットは、生徒さんに行き渡っていないと思います。皆さんもインターネットをされるでしょうから、閲覧できる資料としては、みんな同じ条件です。その中でも、本日選ばれた皆さんのように、突出した素晴らしい作品に仕上げているだけの方と数字だけ並べているだけの作品を提出される方もいて、その格差は大いと感じています。

郷田さんがおっしゃったように、家族に教わったり、先生方に教わったり、本日の資料だけではなく、ある程度のご自身まで資料があって、その上に、自分の思いを乗せ、積み重なっていくのが作文なのだと気がします。

やっぱり資料をお配りする私たちが、資料やパンフレットというのは、きちんと吟味して出さないと、きんいなと思います。

**司会** 続いて、奈良納税協会の植田会長から御意見を伺います。

**植田** どうも、おめでとうございます。いろいろ作文を読ませていただいて、やっぱり賞をもらっていただけの作文だなあとつくづく感じをいたしました。

私からは、この作文を作るに当たって、やっぱりこういう点を述べてみたかったとか、こういう点に苦労したとか、こういう点にはなかなか難しかったなあとか、そういうところがあれば、一つでも結構ですから教えてください。

### 述べたかった点、苦労した点

**植田** 中学生の川上さんは、日常生活の体験を元に書かれていて、藤村さんは、弟さんの急な病気のことを書かれています。それから、江澤さんは、日々使っている教科書の無償化の話ですね。そこからそれぞれ税に対する話をされ、税の大切さであるとか、税が自分達を守ってくれているのだとか、税が日々の生活を豊かにしてくれるのだとか、そういうことがこの身近な事象を捉えて説明していただいています。

誰もが分かりやすく読んで身近に感じているというふうに思っています。



奈良納税協会  
植田 康夫会長

**司会** それでは、生徒の皆さん、順番に回答をお願いします。

**郷田** インターネットで調べたり、家族の話を聞くことで税金に

ついての知識を得ることは、難しいなと感じました。また、その背景や社会環境の情報も勉強することも難しいなと思いました。そして、工夫した点は、今までとは少し違う使い方を自分なりにいろいろ考えてみようと思ったことです。

**植田** 高校1年生の時に書いたものよりは、もっといいものにしたという思いが強く、工夫した点は、学習した内容を用いて増税に対する自身の考えをより説得力あるものにした点と、ちょうど話題になっていた軽減税率をテーマに取り入れた点です。逆に、苦労した点は、このように伝えたいテーマが複数あったので、文章を分かりやすく構成することにすごく苦労しました。

**川上** 自分の身近に起こった道路の舗装工事や学校にエアコンが設置されることについて、みんなに伝えるように心がけました。

**藤村** 納税に対して、義務だからというふうにするのではなく、使い道をみんなに知ってもらって納税したら、未来に大きく貢献できる。それなら、私も納税したいなとみんなに思ってもらえるように、奈良県での税の身近な使い道や環境と関わりを深く使った作文に挙げるように工夫しました。

**江澤** 工夫した点は、税は難しいとか自分から離れたところで行われているものという意識を、教科書というだけで毎日使うような身近なところから考えようとしたことです。少しでも、税について身近に考えることができるように、読んだ人にそう思ってもらえるように考えてみました。

それから、高校生の植田さんは、最近実施された消費税の引上げ問題をとり、日本の国の財政まで考えているという、財政にはいろんな問題があり、プライマリバランスもいろいろ言われることがあります。そういった財政について、年間の予算を審議するのが国会だとか、あるいは、政治のあり方ということも書いておられます。こういうことを通して自分たちの税への意識や税への向き合い方がはっきり示されています。また、植田さんは、日本が直面する社会環境問題を通して、地球規模で解決していかなければならないことがたくさんあり、それが本筋にそういった現実を目の当たりにして、果たして私たちが納める税というのが本筋にその解決のために使われているのかという、そういうことを考える時に、税の透明性であるとか、公平性であるとか、あるいは、納税の得られる活用について、やっぱり税に関心を持って見ていきたいという思いがよく伝わりました。ありがとうございました。

**司会** それでは、「税の作文」に関して、最後の質問とさせていただきますが、奈良税務署の岸部署長いかがですか。

**岸部** 皆さんの今までの話を聞き、勉強されるときは、税の仕組みと同時に使っている道についても、非常に勉強されていると感じました。

**期待する税の使われ方**

私も税務署は、国の財政のうち、どちらかと言うと歳入、入る方ですね、税を賦課して徴収する方の役割を担っています。令和元年の国の一般会計の歳入は、約百一兆円ございますが、そのうち、税金の収入は、約六十二兆円です。

そういった集めたお金を皆さんがいろいろな勉強された社会事業であるとか、公共事業であるとか、教育といったものに使っているということ。教育の分野には、非常に皆さんの税金を注ぎ込んでおられます。公立学校の児童生徒一人当たり、年間教育費で言いますと、小学生なら約八十七万円、中学生なら約百一十万円、高校生なら約九十八万円ということ、なんと、小学校から高校まで

公立学校で十二年間通しますと、約一千百万円の税金で賄われているということ。先ほど、使われ方について話に心が示されていましたが、皆さんが税の使われ方についてこれから期待していることなどについて、お話を伺えればと思います。

**【生徒さんからの回答】**

**司会** それでは、生徒の皆さん、順番に回答をお願いします。

**江澤** 私は、税金を払った人たちがみんなが「税金を払って良かったな。」と思えるような使われ方をしたいと思っています。

**藤村** 学校で配られた資料を見たときに、県でも国でも、歳出のグラフを見ると、地方債や国債などの返還のために多くの税金が使われています。しかも、このままではそれらは増えてしまう一方です。このため、私は税を利用するだけではなく、今の暮らしを未来にも残せるような、今は納税できない私達にも可能な節約方法を学びたいと思います。

**川上** ニュースや新聞で、老後の年金が足りないのではないかなど報道されていますが、赤ちゃんからお年寄りの方までどの世代でも不安なく安心して暮らせるようになってほしいなと思います。

**吉田** 私は、高等学校の数学の教員でした。高等学校では高等学校の教科書を使って教えますが、何を教えるかが大切で、場合によっては教える内容に強弱をつけることもあります。

しかし、中学校の場合は、教科書の内容を全ての分野にわたってしっかり教えることが大切である。となると、税については学習するにしても、ある意味では、知識中心の理解になるかもしれない。皆さんの学びをより豊かにすることができると考えます。租税教室を受けたことがある方に、受けてみてどうだったか教えてほしいです。

**【生徒さんからの回答】**

**司会** それでは、租税教室を受けたことのある、江澤さん、いかがですか。

**江澤** 租税教室では、始めにパワーポイントを利用して、税についての説明をしていただいた後に、6人ずつ班に分かれて税の負担の分け方について話し合っていました。6人の意見がバラバラでまとめるのが大変だったのですが、税金の使い方や分け方について調べて、すごく楽しかったと思います。

これはやはり難しいですが、いい勉強になったということですね。こういった租税教室が広がってほしいなと思いますか？

**江澤** どんどん、租税教室を受ける人も増えて、中学生や高校生でも、税について考えていく人が増えてほしいなと思います。

**吉田** はい、ありがとうございます。

**司会** 続いて、近畿税理士会奈良支部の上松支部長から御意見を伺います。

**上松** 皆さん、おめでとうございます。この作文の表彰式には、私初めて参加させていただいたのですが、税の仕事をしている私にとってこんなに優秀な方が税金に関心を持っていただいているのすごく感激しました。本当に嬉しかったです。

大抵の人は、税金は嫌だ、聞きたくないという人が多いのですが、若い生徒さんたちが一生懸命勉強して作文を作ってくれた、これは本当に有難いことだと思います。

それで、今お聞きしましたら、租税教室に参加された方はこの中で一人だけで、他の方は租税教室の経験がなくてあれだけの作文を書いていたというので、あら、租税教室に参加していただいたら、もっと素晴らしい作文が出来るのではないかと思っております。

私たち税理士会では、年間かなりの人数の税理士を学校に講師として派遣しています。その際には、やっぱり作文の中で見られたように身近なことから掘り起こして、人を説得していく、普遍的な税金の必要性を説いていくといった手法だったと思います。租税教室でもそのようなやり方で講師は講演していると思っています。

いろいろ税の使い方が難しいという意見があったのですが、税は二面性がある、集める難さを使う難さがあるのですね。

今、皆さん、身近でどういう形で使っていくのが良いかという使用の面をお勉強されていると思いますが、これから先、成長されて大人になられたら、納める方の難しさも分かっていたいただけるのではないかと思います。

**【生徒さんからの回答】**

**司会** それでは、租税教室を受けたくない、江澤さん以外の方、順番に回答をお願いします。

**藤村** 調べていく中で、いろいろな種類の税があつて、中には名前が難しい税や、あまり関わりのないような税もたくさんありました。私たちが中学生にも、それらの税が分かるように、資料や具体例を交えて様々な税について学んでみたいと思います。

**川上** 税の使い方をもっと詳しく知りたいなと思います。納税は当たり前ですが、もし、納税しなればどんなことが起きるのかということを知りたいです。

**植田** 租税教室ではないのですが、文系SSHの授業で財務大臣になったと仮定して、実際に、GDPを使って、GDPで税率を変えたりして政策を立てるということをやったことがあります。その時に、実際に財務局の方にきていただき、私たちが発表したものに對して、コメントしていただき、プロの方々に見ていただけたことがすごくいい経験になったと感じています。今度は、その財務局や税に携わるお仕事を知りたいなというふうにも思いました。全員に響くかどうかは分からないのですが、租税教室をする中で、税に興味を持つ人もいます。思うので、どんどん、租税教室ができるようになったらいいなと思います。

いって学ぶことができるのではないかと思います。

**【回答に対する感想】**

**上松** 税について、具体的にどのようなものがあるかを知りたいということですが、我々も混乱します。川上さんがおっしゃったのは、もし、納める人がいなくなるとどうなるか、それから植田さんは、税に携わる仕事や税の使われ方に関心があるのですね。例えて言いますと、集める税金は、皆さんが食事して摂る栄養だと思ってください。使う税金は、体の身となり、肉となり、血となって動く活力になります。もし、税金を払わない人がいたらどうしますか。栄養が取れず、体も動かなくなる。日本国中そんなことになる可能性があるわけですから、必要とする人のために税金は納めないといけない。ただし、これには先ほど集めることは難しいと言いましたが、いかに公平な基準で集めるか、自分だけ損をしている、そういうことのないように納める力のある人が納める。そして、力のない人は、その税金の使い道によって助けられる。これがやっぱり日本のあるべき姿だと思っております。

だから、集める難さを使う難さ、この作文の多くのテーマで言われている使われ方、正しい使い方、我々が安心して生活できるように、これが究極の課題なのだと思います。それで、集める方は、政治家が一生懸命考えて税率をどうしようか、誰に負担してもらおうか、どうしように配ろうか、こういうことを日夜考えておられます。将来、成長されたら、税金の使い方、政治についても考えていただきたいと思います。最後に、こういう作文を書いていただき、きっかけや研究されたことは、皆さんの将来にも役立つと思います。

しかし、税のことだけでなく、もっと他の分野、いろんなことにも興味を持って、調べる、探る、考える、そういった経験を活かし成長していただきたいと思います。これからは、皆さんの大きな人格を作る力になると思いますので、税金のことだけでなく、いろんな方面に興味を持って勉強していただけたらと思う次第です。私からは以上です、ありがとうございます。

**【回答に対する感想】**

**岸部** いろいろな方法で勉強されたというふうな同い、インターネットなどでも見られたということとおっしゃっていただいていたこととおっしゃる中、国税庁のホームページの中に、税の学習コーナーがあつて、結構色分けされて、分かりやすい入り口になっていると思うので、見られたり使われたりされた方がいらしたら、具体的にここが良かったとか、ここが使い難かったとかお聞かせ願えればと思います。

**【生徒さんからの回答】**

**司会** それでは、植田さん、いかがですか。

**植田** 上級者向けと初級者向けがあつて、それがすごく分かりやすく良かったと思います。

**【回答に対する感想】**

**岸部** 見られた方が一人だけだったのですが、我々としてもみんなにご紹介申し上げて、使っていただけるように頑張っていきたいと思っております。

ありがとうございます。

**司会** それでは、お時間となりますので、奈良税務署の岸部署長から本会の総括をお願いします。

**岸部** 本日は、おめでとうございます。そして、座談会に出席していただき、ありがとうございます。

税務署がどうして租税教育の分野に関わっているかということについて、お話しさせていただきます。

元々、税務署は法律で決められた税金を課税したり、徴収するという仕事をしていますが、その仕事を整えるという仕事があります。納税者の皆さんに税のことを知ってもらって、納めやすい、いろいろなツールを作るなどという仕事で、その一つが租税教育です。

児童・生徒の皆さんに、将来税を納めるためのために、こういう税金があつてこういう仕組みになっている、こういうことを使われている、ということを、今の段階から分かっている、今、段階から

これから、高校生の植田さんは、最近実施された消費税の引上げ問題をとり、日本の国の財政まで考えているという、財政にはいろんな問題があり、プライマリバランスもいろいろ言われることがあります。そういった財政について、年間の予算を審議するのが国会だとか、あるいは、政治のあり方ということも書いておられます。こういうことを通して自分たちの税への意識や税への向き合い方がはっきり示されています。また、植田さんは、日本が直面する社会環境問題を通して、地球規模で解決していかなければならないことがたくさんあり、それが本筋にそういった現実を目の当たりにして、果たして私たちが納める税というのが本筋にその解決のために使われているのかという、そういうことを考える時に、税の透明性であるとか、公平性であるとか、あるいは、納税の得られる活用について、やっぱり税に関心を持って見ていきたいという思いがよく伝わりました。ありがとうございました。

**司会** それでは、「税の作文」に関して、最後の質問とさせていただきますが、奈良税務署の岸部署長いかがですか。

**岸部** 皆さんの今までの話を聞き、勉強されるときは、税の仕組みと同時に使っている道についても、非常に勉強されていると感じました。

**期待する税の使われ方**

私も税務署は、国の財政のうち、どちらかと言うと歳入、入る方ですね、税を賦課して徴収する方の役割を担っています。令和元年の国の一般会計の歳入は、約百一兆円ございますが、そのうち、税金の収入は、約六十二兆円です。

そういった集めたお金を皆さんがいろいろな勉強された社会事業であるとか、公共事業であるとか、教育といったものに使っているということ。教育の分野には、非常に皆さんの税金を注ぎ込んでおられます。公立学校の児童生徒一人当たり、年間教育費で言いますと、小学生なら約八十七万円、中学生なら約百一十万円、高校生なら約九十八万円ということ、なんと、小学校から高校まで

場が社会がより良くなるようにというふうなことをお考えだということがよく伝わってきました。こういう考え方をずっと持ち続けて勉強をしていただけて、十八歳になって選挙権が得られた時には、そういった知識を投票に活かしていただきたいと思っています。

**司会** それでは、もう一つのテーマであります「租税教室」に関して、奈良県教育委員会の吉田教育長から御意見を伺います。

**吉田** 私は、高等学校の数学の教員でした。高等学校では高等学校の教科書を使って教えますが、何を教えるかが大切で、場合によっては教える内容に強弱をつけることもあります。

しかし、中学校の場合は、教科書の内容を全ての分野にわたってしっかり教えることが大切である。となると、税については学習するにしても、ある意味では、知識中心の理解になるかもしれない。皆さんの学びをより豊かにすることができると考えます。租税教室を受けたことがある方に、受けてみてどうだったか教えてほしいです。

**【生徒さんからの回答】**

**司会** それでは、租税教室を受けたことのある、江澤さん、いかがですか。

**江澤** 租税教室では、始めにパワーポイントを利用して、税についての説明をしていただいた後に、6人ずつ班に分かれて税の負担の分け方について話し合っていました。6人の意見がバラバラでまとめるのが大変だったのですが、税金の使い方や分け方について調べて、すごく楽しかったと思います。

これはやはり難しいですが、いい勉強になったということですね。こういった租税教室が広がってほしいなと思いますか？

**江澤** どんどん、租税教室を受ける人も増えて、中学生や高校生でも、税について考えていく人が増えてほしいなと思います。

**吉田** はい、ありがとうございます。

**司会** 続いて、近畿税理士会奈良支部の上松支部長から御意見を伺います。

**上松** 皆さん、おめでとうございます。この作文の表彰式には、私初めて参加させていただいたのですが、税の仕事をしている私にとってこんなに優秀な方が税金に関心を持っていただいているのすごく感激しました。本当に嬉しかったです。

大抵の人は、税金は嫌だ、聞きたくないという人が多いのですが、若い生徒さんたちが一生懸命勉強して作文を作ってくれた、これは本当に有難いことだと思います。

それで、今お聞きしましたら、租税教室に参加された方はこの中で一人だけで、他の方は租税教室の経験がなくてあれだけの作文を書いていたというので、あら、租税教室に参加していただいたら、もっと素晴らしい作文が出来るのではないかと思っております。

私たち税理士会では、年間かなりの人数の税理士を学校に講師として派遣しています。その際には、やっぱり作文の中で見られたように身近なことから掘り起こして、人を説得していく、普遍的な税金の必要性を説いていくといった手法だったと思います。租税教室でもそのようなやり方で講師は講演していると思っています。

いろいろ税の使い方が難しいという意見があったのですが、税は二面性がある、集める難さを使う難さがあるのですね。

今、皆さん、身近でどういう形で使っていくのが良いかという使用の面をお勉強されていると思いますが、これから先、成長されて大人になられたら、納める方の難しさも分かっていたいただけるのではないかと思います。

いって学ぶことができるのではないかと思います。

**【回答に対する感想】**

**上松** 税について、具体的にどのようなものがあるかを知りたいということですが、我々も混乱します。川上さんがおっしゃったのは、もし、納める人がいなくなるとどうなるか、それから植田さんは、税に携わる仕事や税の使われ方に関心があるのですね。例えて言いますと、集める税金は、皆さんが食事して摂る栄養だと思ってください。使う税金は、体の身となり、肉となり、血となって動く活力になります。もし、税金を払わない人がいたらどうしますか。栄養が取れず、体も動かなくなる。日本国中そんなことになる可能性があるわけですから、必要とする人のために税金は納めないといけない。ただし、これには先ほど集めることは難しいと言いましたが、いかに公平な基準で集めるか、自分だけ損をしている、そういうことのないように納める力のある人が納める。そして、力のない人は、その税金の使い道によって助けられる。これがやっぱり日本のあるべき姿だと思っております。

だから、集める難さを使う難さ、この作文の多くのテーマで言われている使われ方、正しい使い方、我々が安心して生活できるように、これが究極の課題なのだと思います。それで、集める方は、政治家が一生懸命考えて税率をどうしようか、誰に負担してもらおうか、どうしように配ろうか、こういうことを日夜考えておられます。将来、成長されたら、税金の使い方、政治についても考えていただきたいと思います。最後に、こういう作文を書いていただき、きっかけや研究されたことは、皆さんの将来にも役立つと思います。

しかし、税のことだけでなく、もっと他の分野、いろんなことにも興味を持って、調べる、探る、考える、そういった経験を活かし成長していただきたいと思います。これからは、皆さんの大きな人格を作る力になると思いますので、税金のことだけでなく、いろんな方面に興味を持って勉強していただけたらと思う次第です。私からは以上です、ありがとうございます。

令和元年 作文

編集：奈良税務署